



「うんち」が出るのはなぜ

食べ物を食べるから

うんちが出るのは、食べ物を食べるからです。
人間の体の中には、口からおしりの穴までの長いトンネルがあります。長さは大人で約8メートル、子どもで約6メートルもあり、食べ物は、このトンネルの中を通っている間に、だんだん「うんち」に姿を変えていきます。このトンネルを、消化管といいます。

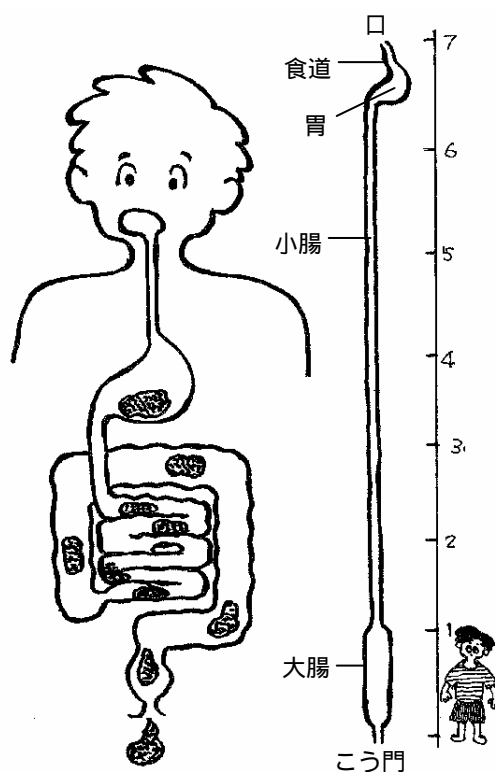
食べ物が「うんち」になるまで

食べ物の中には、栄養になるものと水分、そして、かすになるものがふくまれています。

口に入った食べ物は、歯でかみくだかれ、胃で細かくされて消化され、小腸で栄養が吸収され、大腸で水分が吸収されて、残ったかすが、うんち（大便）として体外へ出されます。

そして、食べた物の種類や、色や形、味や香りはちがっているのに、それが消化され、吸収されて、うんちになったときには、みな同じような状態になっています。（監修・保志 宏）

食べ物が「うんち」になるまで



口からこう門までの長さは、その人の身長7倍にもなります。

